

令和7年度シラバス

教科	芸術科		科目	美術 I	単位数	2
学年	1年生	学科(コース)	普通科 体育科			
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)					
副教材等						

1 学習目標と評価の観点の趣旨

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。		
評価の観点の趣旨と定期考査の配点基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表そうとしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしようとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造しようとしている。
	定期考査の配点基準(目安) 実施しない	定期考査の配点基準(目安) 実施しない	

2 学習計画と評価方法

学期	単元	主な学習活動	考査範囲
1 学 期	絵画・デザイン「絵具と色彩」	・様々な種類の描画材料の性質や特徴を理解する。また、色彩感覚を養い、日常の生活空間や作品制作で生かせるようにする。	
	デザイン「レタリング」	・スケッチブックの表紙を自分の名前の文字で飾る。書体の特徴や違いを知り、意図に応じて書体を使い分けられるようにする。	
	鑑賞「デザインの意図と役割」	・現代社会の生活に根付いたデザインを知ることで、幅広いデザインの世界や役割を理解する。	

2 学 期	絵画「鉛筆デッサン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある物のデッサンを行う。デッサンを通して対象を見つめる目を鍛え、観察力、描写力を身に付ける。</li> <li>・自画像の制作を行う。自画像の制作を通して自分を見つめなおすとともに、性格や心情といった目に見えないものを表現する手法について理解を深める。</li> <li>・表現は一つの視点にとらわれないことを知る。また、複数の視点や、作者のイメージを表現する手法を学ぶ。</li> <li>・タブレットを用いてレポートを作成する。絵や図、写真や文字を効果的に配置し、工夫できるようにする。</li> </ul>	
	鑑賞「視点と表し方」		
映像メディア表現「ART な仕事」			
3 学 期	彫刻「キーホルダーの制作」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属を材料としたキーホルダーの制作を行う。美しく機能的な形態について考えるとともに、金属加工の知識・技術を身に付ける。</li> <li>・身近にある素材を活用した表現や、空間を彩る立体表現について学び、作品の形や色、大きさ、質感などを工夫する意識を持つ。</li> </ul>	
	鑑賞「環境を彩る造形」		
<p>各学期の観点別学習状況の評価の方法</p> <p>知識・技能＝「造形の要素の働きを理解すること」、「意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと」、「表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと」などを、各単元の作品や発表を主な判断材料として評価します。</p> <p>思考・判断・表現＝「課題に応じた主題を生成すること」、「創造的な表現の構想を練ること」、「見方や感じ方を深めること」などを、各単元の作品や発表さらに授業に取り組む様子を通して評価します。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度＝「主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、感性を高めようとしている」を授業に取り組む様子や、レポート、ノートなどの記録を通して評価します。</p> <p>学年末の評価</p> <p>各学期の成績から算出して観点別学習状況評価と評定を出します。</p>			